

ねん	くみ	なまえ
----	----	-----



## こうつうあんぜんテスト (1・2ねんせいよう)



令和2年1月号

ただしいものには○を、まちがっているものには×をかいてください。

- ① こうえんで ボールあそびをしていたら ボールがどうろにでたので  
いそいで どうろにとびだして ボールをおいかけた。


☐

- ② ほとんど しろいろのせんもない どうろを あるくときはどうろの  
みぎはしを あるく。


☐

- ③ ただしい じてんしゃの イスのたかさは じてんしゃに またがった  
ときに かたほうのあしさがき じめんにつけばいい。


☐

- ④ くらくなってから そとにでかけるときは あかるいいろの ふくを  
きたり きらきらひかるものを みにつけたほうがよい。


☐

- ⑤ どうろを おうだんするときには おうだんほうどうを わたる。


☐

# ＜交通安全テスト＞

令和2年1月号

## 解答・解説 (1・2年生用)

- ① こうえんで ボールあそびをしていたら ボールがどうろにでたので  
いそいで どうろにとびだして ボールをおいかけた。【×】

A：公園の出入り口や道路の端などで立ち止まって、左右を確認しましょう。

- 交通の方法に関する教則 第2章第3節3（信号機のない場所で横断しようとするとき（抜粋））
  - (1) 近くに横断歩道橋や横断用地下道など安全に横断できる施設がないときは、道路がよく見渡せる場所を探しましょう。
  - (2) 歩道の縁や道路の端に立ち止まって、右左をよく見て、車が近づいて来ないかどうか確かめましょう。
  - (3) 車が近づいているときは、通り過ぎるまで待ちます。そして、もう一度右左をよく見て、車が近づいて来ないか確かめましょう。
  - (4) 車が近づいていないときは、速やかに横断を始めましょう。車が止まってくれたときは、ほかの車の動きに注意し、安全を確認してから横断を始めましょう。この場合、道路を斜めに横断したり走ったりしてはいけません。
  - (5) 横断中も車が近づいて来ないかどうか周りに気をつけましょう。止まっている車の陰から別の車が突然出てくることがありますから注意しましょう。

### ＜指導のポイント＞

子どもの交通事故の多くは、道路を横断しているときや横断しようとして道路に飛び出した時に発生しています。

公園からボールが転がって出ていった時でも、ボールを追いかけて道路に飛び出すのは大変危険ですので、必ず、一旦止まって安全確認しましょう。

- ② ほどうも しろいろのせんもない どうろを あるくときは どうろのみぎはしを あるく。【○】

A：歩行者は右側通行が原則です。歩道も路側帯もない道路では、道路の右側端を歩きましょう。

- 道路交通法第10条第1項（通行区分（抜粋））

歩行者は、歩道又は歩行者の通行に十分な幅員を有する路側帯と車道の区別のない道路においては、道路の右側端に寄って通行しなければならない。ただし、道路の右側端を通行することが危険であるときその他やむを得ないときは、道路の左側端に寄って通行することができる。
- 交通の方法に関する教則 第2章第2節（歩行者の通るところ（抜粋））

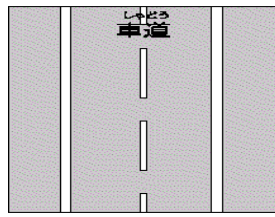
3 歩道も幅の十分な路側帯もない道路では、歩行者は道路の右端を通らなければなりません。しかし、右端を通ると横断を繰り返すことになってかえって危険な場合などは左端を通ることができます。

### ＜指導のポイント＞

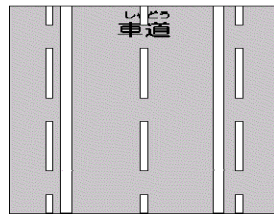
歩行者は歩道又は路側帯を通行しましょう。

- 歩道～歩行者の通行の用に供するため縁石線又はさくその他これに類する工作物によって区画された道路の部分をいう。（道路交通法第2条第1項第2号）
- 路側帯～歩行者の通行の用に供し、又は車道の効用を保つため、歩道の設けられていない道路又は道路の歩道の設けられていない側の路端寄りに設

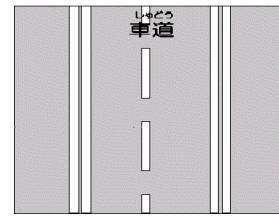
けられた帯状の道路の部分で、道路標示によって区画されたものをいう。(道路交通法第2条第1項第3号の4)



路側帯(白い1本線)



駐停車禁止路側帯  
(白い1本線と破線)



歩行者用路側帯  
(白い2本線)

※ 歩道も路側帯もない道路では、歩行者は道路の右側端を通りましょう。  
ただし、道路工事をしている等、右側端を通行することが危険である場合は道路の左側端に寄って通行することができます。

③ ただしい じてんしゃの イスのたかさは じてんしゃに またがった  
ときに かたほうのあしさが じめんにつけがいい。【×】

A：自転車にまたがった時に、両足先が地面に着くようにサドルの高さを調節しましょう。

● 交通の方法に関する教則第3章第1節2（自転車の点検（抜粋））

自転車に乗る前には、次の要領で点検をし、悪い箇所があったら整備に出しましょう。

- (1) サドルは固定されているか。また、またがったとき、両足先が地面に着く程度に調節されているか。

<指導のポイント>

自転車はタイヤが2本のバランスの悪い乗り物です。

両足がつかない自転車に乗ると、いざという時にしっかり体を支えることが出来ず、倒れてしまいます。

しっかり両足先が地面につく高さにサドルを調節して自転車に乗りましょう。

④ くらくなってから そとにでかけるときは あかるいいろのふくをきたり  
きらきらひかるものを みにつけたほうがよい。【○】

A：夜出かける時は、明るい色の服を着たり、反射材を身につけましょう。

● 交通の方法に関する教則 第2章第5節（夜間歩くとき（抜粋））

- 5 夜間歩くときは、運転者から見やすいように、明るい目立つ色の衣服を着用したり、靴、衣服、カバン、つえなどに反射材を付けたりするようにしましょう。

<指導のポイント>

夜間の外出時の服装は、白や黄色のような明るい色の服を着用しましょう。

黒や紺色の服は周りの暗さと同化してしまいます。

夜間、歩く時や自転車に乗る時は反射材を活用しましょう。

反射材は車のライトを反射して光を跳ね返す特性があり、約100m先（前照灯（ハイビーム）点灯時）の車の運転者に気づいてもらうことができます。

夜間は明るい色の服を着て、反射材等を活用し、車の運転者などに自分の存在を知らせるようにしましょう。

⑤ どうろを おうだんするときはおうだんほどうを わたる。【○】

A：道路を横断するときは横断歩道を渡りましょう。

- 道路交通法第12条第1項（横断の方法）

歩行者は、道路を横断しようとするときは、横断歩道がある場所の附近においては、その横断歩道によって道路を横断しなければならない。

- 交通の方法に関する教則 第2章第3節1（横断の場所（抜粋））

横断歩道や信号機のある交差点が近くにあるところでは、その横断歩道や交差点で横断しなければなりません。また、横断歩道橋や横断用地下道が近くにあるところでは、できるだけその施設を利用しましょう。

<指導のポイント>

近くに横断歩道があるときは横断歩道を渡りましょう。

渡る前には、しっかりと安全確認しましょう。

斜め横断や、車と車の間からの横断は非常に危険ですので、絶対にやめましょう。

◎ 信号機のない横断歩道を渡る時は、渡り始める時には遠くにいる車も横断歩道を渡っている間にどんどん近づいて来るので、左側から来る車には特に注意しましょう。

